

あおもり

CONTENTS | 目次

特集 ▶ P2-5

見逃さないで！ 働き盛りの高血圧

旬を食べよう。あおもり食材で簡単ヘルシークッキング/
青森さらりイッピン 私が出会った青森のイッピン ▶P6

青森の未来に全力！県職員最前線レポート
「今を変えれば！未来は変わる!!」/
取り組もう！子育てにやさしい職場環境づくり/
県産食材を学校給食へ！ ▶P7

申吾のほっとコラム／あおもりインフォメーション ▶P8



馬産地から生まれた 優しい温もり 「きみがらスリッパ」

古くから馬産地として知られる十和田市。かつては、飼料用トウモロコシ「デントコーン」の栽培が盛んに行われていましたが、「きみがら」(トウモロコシの皮は大量に廃棄されていました。そこで、これを有効活用し農閑期の女性たちの副業にしよう)と、昭和22年に誕生したのが「きみがらスリッパ」です。昭和38年には、「十和田きみがらスリッパ生産組合」を設立。現在も材料の生産から製品の仕上げまで全て昔ながらの手作業で行っており、県の伝統工芸品に指定されています。

5月に畑に種をまき、10月に1枚ずつ丁寧に皮をはいで2週間ほど乾燥。その後、細く裂き適度な湿り気を与えながら、ひと目ずつ手で編み上げていきます。きみがらは、自然素材のためサイズや厚さもまちまち。そのため、非常に手間がかかり、熟練者でも1日1足完成させるのが精いっぱいと言います。こうして、愛情込めて作ったスリッパは、足を入れた瞬間、ふわりと包み込まれるような優しい履き心地。湿度を吸収・放出してくれるので、冬は温かく夏もサラリと快適です。

以前は無地のみでしたが、近年は染色を施したきみがらも取り入れています。カラフルで美しいデザインは、お洒落に敏感な若い世代からも人気で、全国からの注文に製造が追いつかないほど。首都圏のセレクトショップからも熱い注目を集めています。

▼関連記事はP6で